

発行者：大阪府釣りインストラクター連絡機構 本部：〒544-0013 大阪市生野区巽中4-19-19 tel 06-6364-4156 (編集責任者：広報部 室井)

## JOFI大阪の多彩な活動を一度覗いてみませんか

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は夢洲にて万国博覧会が開催され、安全対策として釣り場の制限がありました。幸いにも報道されるような問題も無く、無事にイベントも終了。釣り場も元通り解放され、釣り人の皆さんが楽しんでいる姿を多く見かけます。

最近では多くの外国の方が市内の堤防で釣りを楽しんでいます。ただ、文化の違いもあるのか釣り禁止の場所での釣りやゴミの放置などの問題行為が目立つのも実情です。会員の皆さんの釣り場見回り時に、マナーやエチケット的に気になる場所があれば、ぜひ優しく指導していただければ理解していただけると考えています。

大阪府釣りインストラクター連絡機構代表

## 綿井良隆



私たちは海釣り公園等での安全指導やボーイスカウトの釣り検定、親子を対象とした釣り体験教室など、実に多彩な活動を続けており、多くの方々に感謝もされている稀有な団体と自負しております。

会員の中でそんな活動に少しでも興味をお持ちの方は、ぜひ雰囲気だけでも味わいに来られませんか？永く釣りを楽しんできた先輩との会話も、釣りの勉強にもなること請け合いです。

気候の変化が顕著な時代になってきました、

皆さん、体の変調には気を付けて今年の活動もよろしく願っています。

## 令和7年度の活動紹介

### JOFI大阪 釣りインストラクター in フィッシングショー大阪2025 (R7-2/1・2)

#### 報告01

## 船釣り教室講師応援

第62回フィッシングショー大阪2025の4号館にて「船釣り体験仕掛け&釣り方教室」の講師を3名で担当しました。1日2回、12:15~13:15と14:15~15:15の日程で実施。今回の課題は「釣りとは？」と題して説明をおこないました。講義の内容は以下の通りです。

【船釣りの歴史と仕立て船、乗合船のシステムについて】江戸~明治中期までの船釣りの歴史のほか、関東で発達した乗合船が関西に広がった後、ライフジャケットの着用や船上での指揮権は船頭がもつなどのルールができたことを解説。

【操船による分類】かかり釣りの釣り方(和歌山)、流し釣りの釣り方(大阪湾)と乗合船の技術について。

さらに、【釣り船の予約など】や【ジギング船について】の他、【仕掛けづくり】では講師3名がお客さんのもとの「8の字チチワ」「枝ハリス」「電車結び」を教えるとともに、釣の結び方(本結び)を徹底して教えました。

船釣り教室で受講された方は、一つ一つの釣り方や仕掛けの作り方を知って、釣り場へ行くまでに覚えておいて欲しいと思われました。

(報告：高木)

#### 報告02

## 体験マス釣り応援



スタッフとしてJOFI大阪のほか、ヒューマンアカデミーフィッシングカレッジの学生や学釣連の方々、JOFI奈良の釣りインストラクターが協力。私自身は一昨年からは引き続き、3度目のサポート参加です。

両日共10:00前後から15分の時間枠でお客さんが入れ替わります。2つのプール2日間でマス釣りを楽しまれたお客さんは総計900人程。メインは餌付けと釣れた魚の針はずしですが、どうやれば良いかわからない方には状況に合わせてアシスト。

サポートスタッフ総出で釣りの楽しさを感じていただき、また釣りに出掛けたいようになれればと奮闘しました。今年は昨年のようにマスがプールの1箇所には固まらない対策をされるなど、いろいろと運営側の苦勞も垣間見えました。

参加者の中には昨年もお越しになられた方も居り、「また来たよ」との嬉しい一言も。新しい才能、個性も感じつつスケジュールをこなし、2日間があっという間に終了。15分の内わずか7分の実釣時間に少しでも「また、魚釣りしたいな」と次回の釣りを思っただけでも嬉しいです。

(報告：馬場)





3月30日(日)に、定時総会をヒューマンアカデミー大阪心斎橋校の1112号室で今年も会員皆様のご協力をいただき開催いたしました。昨年と違うところは、参加者がマスクなしで出席されたことです。

定刻になり司会の室井広報部次長が受付の西谷大阪中央支部長から出席者等の報告を受け、全会員数は46名、当日の出席者14名と委任状25名を合わせた39名で、全体の84.8%であることを確認。規約第9条一項(1)の「総会は会員の過半数(委任状を含む)の出席で成立し、総会の議決は出席会員(委任状を含む)の過半数の賛成によるものとする」条件を満たし、成立していることが報告され開会宣言されました。

綿井代表から「大阪関西万博を釣りの未来に活かせるように」大阪港湾局と大阪湾釣り関係者会議での提言を含め挨拶されました。また、3月13日に辻哲男元監事が逝去されたことの報告もされました。

戸波相談役から、初代代表の吉川さんから会計委員長に任命されたこと。広報委員長には来田さんが選任されたことなど、設立当時の状況をお話いただきました。塩見相談役からは、若いインストラクターを育てるためにどうすればいいのかなどについてお話をいただきました。

議長に事業部次長の小川会員を選出し、了承を求める事項から議事へ。前日、高木事業部長からコロナに感染した旨の電話連絡があり出席できないとのこと。また、山本次長も体調不調で欠席とのことで、議長に選任された小川事業部次長が、第一号議案「令和6年度事業報告」を実施。本部事業・協力事業や南港魚釣り園護岸での初心者指導や魚拓教室、コスモスクエア巡視活動と夢舞大橋付近の巡視保全調査、水質調査、不法駐車調査等を含めた年間実施日数が131日355名の参加名との報告がありました。

第二号議案では田隅広報部長が、広報誌を300部作成し、フィッシングショー大阪2025の会場で船釣教室受講者と来場者に100配布したことなどを説明。ネットラジオ収録日数は6日で協力者はのべ25名。公式ホームページには14,220回の訪問があり、ネットラジオへのアクセス数は453回。そして今後も、より充実したホームページ等を作成したいとの報告がありました。

第三号議案は、物部財務部部長から令和6年度の会計報告と、南港魚釣り園護岸巡視活動の旅費活動費支払いについては事業収入を充当していること。計画と実績の差額について、通信費(ライン等ネット活用)、事務費(パソコン購入の減額)、

旅費交通費(活動回数の減少)の減額・減少の結果であること。釣り教室等の活動時インストラクターであることが判別できる用品の購入を予定していたが、確定・購入までには至らなかったことの説明報告がありました。

第四号議案は2月7日に財務部が三木監事のもとへ出向き、「平成6年1月1日から12月31日までの、現金出納帳と各種金融機関口座及び収支計算書類を監査した結果、その内容は正確且つ適正なものと認めます」との監査報告を受領。当日は年度末の繁忙のため、物部財務部長が代理で説明しました。

第一号議案から第四号議案について質疑がおこなわれ、全議案が報告の通り拍手をもって了承されました。

決議を求める事項では、第一号議案「令和7年度事業計画(案)に関する件」を1月から3月末までの実施済みイベント紹介の後、4月以降の本部協力事業のコスモスクエア海浜緑地巡回、南港魚釣り園護岸初心者指導や日本釣振興大阪府支部と共催する「弘済会みらい・のぞみ園釣り教室」、その他開催されるイベントに、1人でも多くの会員に協力があるようにとの説明がありました。

第二号議案「令和7年度広報誌発行計画(案)に関する件」は田隅広報部長が、来年のフィッシングショー大阪2026も開催が予定されているので、広報誌を来場者に配布したいとの説明がありました。またインターネットラジオ収録には、各支部会員協力の依頼がありました。

第三号議案「令和7年度収支予算計画(案)に関する件」では、予算額が前年度実績額より大きく差異のある科目について説明がありました。費用削減に努力したいが、物価上昇の年度でもあり難しい旨の説明があり決議いたしました。

第四号議案「規約の一部改訂(案)」では、物部財務部長から「第12条」改定案に関する説明がありました。

(改定後) 第12条 (役員)

(6) 執行部役員の副代表及び次長と支部役員の副支部長は1名としているが、役員会から総会で報告し決議されることで複数人にすることができる。

(改定前) 第12条 (役員)

(6) 各部会の次長及び副支部長は1名としているが、役員会から総会で報告し承認されることで複数人にすることができる。

第五号議案「令和7年度新役員(案)に関する件」は、綿井代表から説明があり、執行役員として3名の副代表に物部胤三(現財務部長)、高木博文(現事業部長)、田隅衛(現広報部長)、続いて事務局長に小川俊幸(前事業部次長)、事業部次長に馬場清志(大阪北副支部長)、広報部部長に室井正行(前広報部次長)、広報部次長に田隅衛(前広報部部長)、監事に大阪南支部から房野功治会員(新任)の選任発表があり、令和7年度の決議事項を全員一致で終え無事閉会しました。

(報告：事務局)

日釣振大阪府支部主催の水中清掃が忠岡漁港にて6月28日(土)に開催されました。参加者は計47名。そのうちボランティアダイバーが13名、JOFI大阪からは3名が参加。地上班は31名。例年よりも早い梅雨明けとなり、当日は快晴。炎天下での作業開始です。

ライフジャケットを全員着用し、橋本大阪府支部長から挨拶をいただいた後、漁港内のゴミ回収とダイバーからの引き上げ回収の2班に分かれて開始。ダイバーが漁港に潜りゴミを集めてゆきますが、ヘドロで前が見えにくいとのこと。また思ったより水中のゴミは少ないとのことでしたが、回収用の網に次々とゴミが入られ、岸壁上に引き上げられます。釣りと思われるゴミは少ないようでしたが、金属やボール、缶などが引き上げられました。引き上げられたゴミからの悪臭もありました。

漁港内のゴミ拾いで回収された主なものは、ペットボトル・飲料缶・バッテリー・建築資材など。水中から引き上げられたヘドロまみれの主なゴミは、飲料缶・ペットボトル・燃料ケース・網・資材など。



回収されたゴミは分別・記録されました。ボランティアダイバーの方々のヘドロの中でのゴミ回収は、事前準備や終了後の始末も大変なことと思います。

炎天下のもとで熱中症などもなく、昼頃には無事終了となりました。なお本日の経験を通じて、釣り場ではゴミを持ち帰ることを今後も徹底したいと思いました。(報告：小川)



7月27日(日)、日本ボーイスカウト大阪連盟主催の釣り章考査会(座学)が開催され、釣りインストラクター7名が講師として参加。スカウトの参加は23名でした。

午前中の講義では、釣りの基本や歴史をはじめ、法律を含んだ釣りのルールやマナー、釣りに必要な道具、どこに釣りに行くか、釣り場での留意事項などを取り上げました。ルールやマナーを守り、環境への問題意識の高い、模範となれる釣り人の育成をめざし、解かりやすい講義に徹し、確認テストも実施しました。

午後からはルアーとフライの知識に続き、釣り以外での魚の捕

獲方法や調理方法等を講義しました。

講義後は仕掛けづくりの実践講座。釣りの基本の結び方の習得をめざした後、実際に使用できる胴付き仕掛けの作成。釣り糸や針などを初めて扱うスカウトも多く、手間取る場面においてはその都度、インストラクターが個別に指導にあたりました。胴付き仕掛けは11月の「実釣編」用に、2セット作成。時間内に完成できなかったスカウトが数名おりましたが、閉会式後に個別指導し、全員なんとか作成できました。

10:00から16:30過ぎまで、長丁場な座学でしたが、次回の実釣に向け、釣りの基本は学んでいただけたかと思います。

11月の実釣とレポートの提出でボーイスカウト釣り章が交付されるということです。参加された皆様、おつかれさまでした。

(報告：小川)

酷暑の中、大阪湾稚魚放流が堺新港にて8月21日(木)に開催されました。例年の実施場所であった舞洲から堺新港に変更されたのは、現在開催中の大阪・関西万博の関係とのこと。当日の参加者は27名。内、JOFI大阪からは4名の参加となりました。

岸和田渡船、たまや渡船の2隻の船が堺新港に到着した後、大阪府釣り団体協議会の倉田会長より挨拶があり、メバルの稚魚7,000匹、アコウの稚魚4,000匹を2隻に分け積み込みます。一部ホースでしたが、多くはバケツリレーにて作業。チヌは事前に放流済みとのことでした。

バケツリレー中も元気なアコウの稚魚(15~20cmほど)が箱の中で跳ねています。積載後、岸和田渡船は離岸し、別の放流地点に向かいましたが、たまや渡船の船は堺新港での放流。大阪湾の環境が改善され、放流された稚魚たちが大きく育っていくことを願うばかりです。

稚魚放流は今年で43回目とのこと。全国でも拡がりを見せ最近では大阪湾でもアコウが釣れているとの話も聞かれるようになりました。今後もこのような取り組みを通じて環境維持活動の大切さを学



ぶ機会が提供されるとともに、魚類の保護活動が身を結び、大阪湾での漁獲量が拡大することを願ってやみません。さらに、釣り人以外の方々にももっと、このような地道な活動に関心をもってもらえたらと感じます。

当日の大阪は最高気温が35℃を超える猛暑日でしたが、トラブルなく無事終了しました。参加されたみなさま、大変暑い中、おつかれさまでした。(報告：小川)

## 今年も「類塾子供釣り体験教室」に協力 (R7-9/15)

早朝4:30、4人で自宅出発。夜明け前でも気温が27℃あり蒸し暑い、今日9月15日(月/祭)の天気は晴れで雨は降らない予報。しかし、熱中症が心配である。

大阪市港区から阪神高速に乗り、泉佐野南で降りて県道を走って目的地の淡輪青少年海洋センターに6:00に到着。JOFI大阪の集合時間は7:00であるが主催者が早くにヨットハーバーの棧橋入口を解放してくれていたの、開会式の階段下にライフジャケット等を置き棧橋の真中にサオヤリールと仕掛けのサビキ等、エサのアミエビをセットする体制が整った。参加者の生徒は、前日から青少年海洋センターに泊まり込みでいたので、開会式の8:00には階段したに集まって、ライフジャケットを着用、ゴミ袋の配布、すきすきフィッシングを渡した。8:30開会式、主催者が今日の釣り教室を楽しんで魚と海の自然と熱中症に気を付けてください。

次に「JOFIメンバーが危ない魚をパネルで生徒に見せながら解説、魚が釣れた時、何の魚か分らない時はJOFIの先生に聞いてください」と終了後集合写真を撮る。今日の参加者は、小学3年2名、小学4年4名、小学5年3名、小学6年5名、中学1年5名、中学2年4名、高校1年1名の計24名と類塾先生5名、JOFI4名一般応援者2名合計で35名になります。

次は、ヨットハーバー棧橋における釣りです。開会式が終了して、8~9名の生徒を3グループに分け、JOFI2名、先生1名が指定された釣り場まで誘導。

さあ、釣り開始。



早速、マサバ(16cm)マ  
チヌ(26cm)アジ(18cm)  
クサフグ(25cm)グレ(2  
5cm)スズメダイ(10cm)  
等が一投目から釣れて  
います。

◎先生「この魚何ていう魚」「食べれるの?」や「魚がさわれない」「手のひらをあけてみて、魚を上におくよ、魚があばれないよ、ほらさわれた」

◎「魚が釣れないどうすれば釣れるの」等々

にぎやかに、インストラクターに質問ぞめ!!

インストラクターが一人ひとりにていねいに対応した。

9:00頃に、気温が34℃になったので、熱中症にならないため参加者全員に、水分補給をうながし全員が補給するのをたしかめて、気分の悪い子がいないか顔色等を確認した。

生徒24人中、2名の生徒が釣れなくて残念でしたが、海の中に魚が泳いでいるのを見て、非常に楽しかったと感動していていた。大半の生徒がまた来年もここに釣りに行きたいと喜んでいました。

10:30 釣り終了。ここで思いがけない声!!生徒と先生が「インストラクターの皆さんありがとうございました」と大合唱がおきて大拍手です!

「楽しかったです」「よかったです」「又きます」と終了。サオとリール、よごれたバケツ、また、自分の釣り場で「アミエビ」でよごれた棧橋をデッキブラシで洗って、水をかけて終わり。

サオとリール等も洗い場まで生徒がもっていきました。

今日の釣り教室は、だれもが注意して無事故で終わることが出来ました。そうじも終わり13:00にJOFIは解散。

(報告:高木)

## 精華高校 釣りの授業をお手伝い

(R7-9/20)

高校の授業の一環として9月20日(土)、大阪南港魚釣り護岸にて釣り教室を実施しました。当日はくもり。夏から長引く酷暑もなく、遠くに大阪・関西万博の大屋根リングも望めることができる最高の釣り日和。生徒は高校1~2年生の30名程です。9:30過ぎに生徒たちが到着し、危険な魚や注意事項説明。ライフジャケット着用後それぞれ釣り道具をもって班ごとに釣り場へ向かいます。

サビキ釣りの方法を各班毎に説明後、いよいよ釣りスタート。魚の群れが少ないようで、なかなか釣れません。しかし、時間が経過すると撒き餌が効き出したのか、サバが釣れ始めました。中には釣れた魚を触れない生徒もあり、先生やインストラクターが暴れるサバを外します。実釣は1時間程度でしたが、サバたちが元気な姿を見せてくれました。釣った魚は学校に持ち帰り、

希望する生徒に配るとのことでした。11:00前には釣りを終了し、各自釣り道具やゴミを釣り場から持ち帰り、終了。生徒たちの爽やかな笑顔が印象的でした。

次回は10月4日(土)の予定

とのことで、また生徒たちと魚との出会いを演出したいと思えます。引率の先生方、魚釣り園護岸のスタッフの皆様、そして参加されたインストラクターの皆様お疲れさまでした。今回は全員魚を釣ることはできませんでしたが、少ない時間でも自然と対峙する醍醐味や喜びを感じてもらえたと思えます。

(報告:小川)



## 寝屋川市スポーツ少年団 親子ふれあい釣り教室 (R7-9/27)

今年の猛暑とは違い微風の釣り教室。まず、恒例の釣り解説を実施し、全員ライフジャケットを着用。釣り場まで案内しました。



防波堤の工事中であり、釣具類の他にも熱中症対策等の物品が多く、移送に力と時間がかかりました。

偶然、最初に釣れたのが「アイゴ」で参加者に魚を見せながら危険な部分を説明できました。初めは各班のインストラクターが竿の上下でエサを撒いていましたが、25cm前後のサバが釣れだしたので、早速交代。サバの強い引きと参加者の大格闘が始まり、穂先と仕掛けが絡みも多く発生し、対処するのに時間がかかりました。しかし、今年も日釣振大阪府支部のご協力で、

カエシが円形になっているサビキ仕掛けを使用していたので安全に対処できたとのことでした。

保護者の方々も強い魚のやり取りを体感し、笑顔がこぼれ、歓声が上がりました。入れ食い状態のまま11:00になり、12:00まで昼食と休憩。そのあいだも釣りを継続している子どもには注意を怠らないようにしました。

すでにサバが大漁なこともあり、終了時刻を1時間短縮。終了後は清掃作業をすることとしました。インストラクターから料理や保存方法の説明を聞き、対処される保護者もいらっやいました。

最後に全員からいただいた「来年もよろしくお願いします」との言葉に疲れも癒やされ、帰路につきました。

(報告：物部)

## 第2回精華高等学校釣り教室 (R7-10/4)

大阪南港魚釣り園護岸にて、今年2回目の精華高等学校の釣り教室を参加者18名(生徒15名・引率3名)で実施。昨年からの数え、今回で4回目の協力です。時折雨もばらつく悪天候の中、釣りの基本やマナー・ルールと魚の資源管理などをまず説明。

釣り場に移動後、サビキ釣りを各班別に説明し、釣り始めましたが、前日の雨による水潮の原因か、魚は少ないようです。一般の来園者も同様でなかなか釣ることができませんでしたが、時間とともに撒き餌が効いたのかサッパが少し釣れ始めました。



しかし、頑張ったがためにタイムアップ前にアミエビを使い切ってしまうなど、釣れた生徒は少数。生徒全員に「魚

を釣るという」体験をして貰いたかったのですが願い叶わず、残念でした。11:00前に終了し、釣り場の清掃。釣った魚は学校に持ち帰り、希望する生徒に配るとのことでした。

最後にインストラクターから「今回は全員魚を釣ることはできませんでしたが、少ない時間でも自然と対峙する醍醐味や喜びを感じてもらえたと思います」と講評。講評後、生徒たちからお礼の言葉があり、マイクロバスから手を振る生徒達の笑顔が印象に残りました。

来年の釣り教室では生徒達と生きた魚達との出会いがあり楽しい釣り教室になりますように。引率の先生方、魚釣り園護岸のスタッフの皆様、そしてインストラクターの皆様ごころうさまでした。(報告：物部)

## 全国縦断チャリティー祭り 舞洲会場をお手伝い (R7-10/11)

「チャリティー祭り」の最後を飾る大会が、10月11日(土)に舞洲シーサイドプロムナード釣り解放区で実施されました。

当日はくもり空でさらに、多少の霧雨もありましたが反面、酷暑もなく、熱中症の心配はなし。閉幕を控えた大阪・関西万博の大屋根リングを前方に望めることができ、また、万博輸送の客船や警備船が行き交う中、釣りには最高の日和でした。エントリーは31名で若者の参加が多数目立ちます。

本日参加のJOFI大阪 釣りインストラクター2名の役目は釣り場の巡回。開祭式の後、早速釣り場をまわりながらゴミ回収も手伝いました。

サビキ釣りの方々はサバやサッパ、チヌまでサビキで釣れています。さらに、ようやく湾奥にも青物が入ってきたようでルアー組からサゴシやツバスの検量持ち込みがあります。サゴシは1人で3匹も釣られたお父さんも。胴付き仕掛けではガシラも姿を見せました。小さいサイズ(20cm程度)のアコウはリリースです。ルアー釣り初心者にはちょっとしたコツ。サビキ釣りの方にはタナ

の取り方などを指導しました。例年に比べ、釣れた魚種・数量とも多かったようです。

大会は13:00に終了。表彰式に先立って全員参加のジャンケン大会。本年最後の祭り祭りということもあり、残っていた賞品も全出しとのこと(主催者談)。大いに盛り上がった後、表彰式に移り、ファミリーの部、個人ジュニアの部、個人一般の部で各上位3位までの入賞者が表彰されました。記念の集合写真撮影後、14:00過ぎに無事終了、解散となりました。

参加された方々やスタッフのみなさま、おつかれさまでした。

釣果や天候もそこそこ良く、秋の三連休の初日を楽しく過ごせました。

(報告：小川)



## 報告12

# 枚方第3団カブスカウト釣り教室 全員が魚とのやりとりを体験 (R7-10/19)

2年ぶりに枚方第3団カブスカウトから釣り教室の依頼があり、依頼日の10月19日(日)にはすでに水辺感謝の日への協力予定が入っていましたが、役員会で賛同が得られ、双方に協力することに。

事前打ち合わせでは、前回と異なる点等を調整。前回好評だった魚拓作成の要望が強かったのですが、インストラクターの協力人数の関係で実施できないことを承いただきました。

当日は、サゴシをメインに青物が釣れ出しており、開園前から150人超の入場者で満員状態。釣り場が空くのを待っておられる人も見られました。早朝からの釣り人は10:00前頃には多くが帰られるとの売店情報を受け、参加者が9:00に来園されましたので、釣り安全教室を長めに実施後、釣り場をなんとか確保。

10:00前から実釣を開始。ルーアーフィッシングの後だからかアジやサバの姿はなかなか見られませんでした。徐々にサバが釣れ出し、昼前には全員「魚を釣り上げる体験ができました

!」と隊長から報告がありました。カブスカウトや保護者の方々からも「楽しい1日でした」との言葉もいただきました。

インストラクターの人数が少ない場合での開催方法について、主催者側の協力を仰ぐなど、今後に向け模索する必要があると思いました。(報告:物部)



## 報告13

# 水辺感謝の日 常吉大橋下で清掃活動 (R7-10/19)

JOFI 大阪 釣りインストラクターは常吉大橋下の会場に3名で参加しました。参加者は35名。株式会社魚矢副理事長からの挨拶の後、早速清掃作業を開始。万博が開催されていた影響もあり、常吉大橋下での大がかりな清掃作業は久しぶりです。

ペットボトルなどのほか、捨てられた竿などもあり、例年よりゴミが散乱しています。建築資材、看板と思える大型ゴミも。トラックドライバーのモノと思われるゴミも多くみられました。

最近、各地の釣場ではゴミ箱が無く、持ち帰りが必須になっているためか、エサなどのゴミより、ペットボトル、缶、食べ物の

容器の方が多い状況。タバコのフィルターも散乱していました。ゴミ量は例年より多いようでした。道路脇の草むらに多くゴミが散乱しておりましたが、今後は草むらの草刈りを定期的にするとのことで草むらの中に放置されるゴミの量も減るかと思われ

ます。いずれにせよ、清掃作業をしなければこのゴミが風に飛ばされるなどして大阪湾に流れていくこととなります。釣人以外の方々にもマナー向上を望みたいところです。(報告:小川)



## 報告14

# ダイキン工業労働組合 ファミリーフィッシング釣り教室に協力 (R7-11/3)

泉南の淡輪ヨットハーバー桟橋において、JOFI大阪のメンバー6名と一般応援者1名が、釣り参加者大人24名と子供16名を指導。

朝暗い時間に大阪市内を出発し、淡輪を目指した。ヨットハーバー駐車場へ7:30到着し早速ライフジャケット・竿・リール等の釣り用品をおろし、開会式開催場所の階段まで運んだ。

天候は晴れ、風は強く気温は8:00で15°C。風があるので少し寒く感じる。開始の9:30までに釣り具の準備が整った。今日のサビキ仕掛けは、釣を6本バリから3~4本釣りに少なくして安全に実施できるようにした。

開会式にはインストラクターから危ない魚を子供に分かりやすく説明。分らない魚はインストラクターに聞いてくださいと大きな声で話し、ライフジャケットを着用、ゴミ袋の配布、すきすきフィッシングを渡し参加者の7グループ14家族を誘導した。

釣り場に到着したグループが竿を出したらすぐに魚が釣れ入れ食いである。釣果はアジ(15~25cm)サバ(20cm) チャリコ(10cm)



ガシラ(15cm) アイナメ(20cm) ベラ(15cm) グレ(15cm) クサフグ(10cm) イワシ(10cm)。親も子供も生きた魚を触れないし握れない。インストラクターどうすればいいの?! あちら

やこちらから声がかかり、インストラクターは忙しい。また、サビキに大きなアジやサバが2匹、3匹と掛かりサビキが団子状態、子供達は、周りの子供が魚を捕まえているのを見て、恐るおそる触ると大きな声で魚を捕まえた! お父さんお母さん見てみてと歓声がそこらじゅうに飛んでいた。

小さなクーラーでは入りきらず、ナイロン袋に入れるほどでこれ以上、釣っても食べられないので11:00に終了。全参加者釣り場のゴミをひろい、清掃を行ったデッキブラシでアミエビのよごれをとり水をながして終了とした。自分で使った竿、リールを各自もって洗い場へもっていった。

インストラクターの皆さん今日はありがとうございました!!の合唱をしていただき解散とした。

ファミリーの方が、また子供達が魚をさわった釣りはじめてした方が多く、このような魚釣りをしたい、インストラクターの皆さん次回あればよろしくお願いします。

よろこばしいかぎりです。

(報告:高木)



7月27日(日)の座学に続き、日本ボーイスカウト大阪連盟かわち地区主催のボーイスカウト技術章「釣り章」の実釣考査を大阪南港魚釣り園護岸にて実施しました。

天気は快晴。吹田市や高槻市、狭山市など大阪府下の広いエリアからスカウトの参加があり、総勢17名でした(引率の方は7名)。

9:00過ぎから開会式を実施し危険な魚や注意事項の説明の後、参加スカウトは3班に。各班に2名の釣りインストラクターが付き、10月末に開放となった大和川尻へ。サビキ釣りの説明後、早速実釣を開始。水面にはボラの幼魚が群れを成して彷徨っています。

開始からアタリがなく、1時間以上が経過してようやく底のタナで小アジが釣れました。しかしその後、胴付き仕掛けでガシラ・ベラを釣り上げたスカウトもいましたが、魚信は続きません。イ

ナッコが数匹釣れている場所へ全員移動し、なんとか数名がイナッコを釣ることができました。

12:00に終了。潮回りの影響か釣れたのはわずか20匹ほどの貧果。しかしながら、初めての釣りで魚信を体験することができたスカウトがいたのは良かったのではないのでしょうか。

閉会式の後、予定どおり12:30解散となりました。天気とは裏腹に釣果は厳しい結果となりましたが、若いスカウト(中学・高校生)にはまた釣りの醍醐味を体験して欲しいと思います。みなさま、大変おつかれさまでした。(報告:小川)



岬町観光協会親子ふれあい釣り教室を泉南の淡輪ヨットハーバー桟橋でおこなった。

7:00頃の気温が10℃で防寒ジャンパーが必要な寒さだ。10:00頃になると18℃の天気予報である。一般参加者は大人19名、小学生8名、小学生以下9名、皆で36名が釣りをする人である。ここにスタッフ5名、JOFI大阪5名、全員で46名だ!

9:00頃から参加者が集まり、9:30より開会式。主催者アイサツ、次にJOFI大阪のメンバーが危険な魚について勉強。魚類はヒレにするどいトゲを持っているので気をつけよう。フグ類は毒があるので食べないように。カラスが食べ物を狙っているので気をつけよう!と指導。最後に集合写真を撮り、さあ!釣り場へ。

1家族か、2家族5~6名単位でインストラクターが釣り場まで誘導。途中で竿+リールのセットとアミエビの入ったバケツを1家族ごとにもらって指定の場所へ、そこで釣り方の学習だ。竿・リールのもち方、使い方を教え、アミエビをアミカゴに入れて、さあ釣り開始。

仕掛けを入れたらすぐに、スズメダイ・草フグが釣れ歓声が上

がりどうすればいいの?! 魚をさわれなくてこちらに来て!どうすれば…インストラクターが魚をつかんで、クーラーに入れた。子供たちが釣れた魚をこわごわ素手でにぎってクーラーに入ると、できたできた、他の子供も魚をつかめるようになった。喜びの声がそこから中でおこった。

11:40に釣り終了。釣り教室の釣り場を皆でそうじをした。

参加者はライフジャケット・竿+リールを所定の洗い場までもっていき閉会式。参加者・役員、全員が「本日の指導ありがとうございました」と大声で言ってくれ、インストラクターもありがとうございましたと応えた。また、参加者から来年もよろしくお願ひしますとの言葉があった。

終了後、竿からサビキの仕掛けをはずし、釣り場のアミエビの汚れをデッキブラシでこすり海水で流した。洗剤をしみこませたスポンジでライフジャケットを洗い、1枚ずつほしてかわかした。竿、リール、バケツ等も水洗いしてかわかし、15:30解散とした。

(報告:高木)



日本釣振興会大阪府支部主催で水辺環境保全活動の清掃事業が、大阪南港フェリー乗り場・常吉大橋下の2か所で実施され、総勢44名が参加。インストラクター3名は常吉大橋下の会場に。常吉大橋会場には36名が集合し、橋本支部長挨拶の後、早速清掃作業の開始。



前回は1ヶ月半前に開催されましたが、やはりゴミがところどころに見受けられます。草むらや道の側溝にペットボトル、飲料缶、弁当ガラなどが散乱。中には建築資材、看板、ガスボンベ、ライター

などもありました。周辺は大型トラックの駐車場所になっており、トラックドライバーからのモノと思われるゴミも多いように思われます。

中身が入ったままのペットボトルや缶、捨てられた傘、アミエビや仕掛けの袋などもあり、分別回収に手間取りました。道路脇の草むらは今後、草刈りを定期的にする事で草むらの中に放置されるゴミの量も減ると思われます。

釣り人以外と思われるのゴミも多く、釣り人以外の方々にもゴミの持ち帰りや指定された場所での廃棄の励行を願います。そして、今後もこのような活動を通じて水辺環境の保全に努めていこうと思います。(報告:小川)



## 冬の釣り

冬一月から二月にかけての寒バス釣りは、関西では先ず京都宇治川が一番にあげられるだろう。岡山県旭川・兵庫県揖保川と私の良く釣行した京都桂川松尾橋上下、その上流である保津川下りの亀岡乗船場所周辺とその上流黒住教の前上下、特に乗船場上流では脈釣りで良く釣れる所が在りました。また、愛媛県の重信川で釣れるハスを昭八と呼んでいるようです。昭和八年に移入されたと聞いています。この川では二月ではありましたが良く釣れた川でした。

## 春の釣り

春三月は待望の溪流釣りです。

私の初めての溪流釣りは、和歌山県の富田川でした。初めてアマゴを釣り、手にした時の感触と感激は今もはっきりと覚えております。その後、和歌山県は日高川上流竜神、滋賀県では安曇川・姉川・犬上川・和邇川などでした。鳥取県では、特に忘れることのできない千代川支流八頭川は、兵庫県の山崎から北へ戸倉峠トンネルを抜けて下ると、右に八頭川の源流が流れている。イワナはこのあたりから釣れる。ここからかなり下って行くと、右側に民家があり平家の落人の集落で、ここに右側から流れでる川が家の谷川、ここで左へ間もなく橋がある。左側から流入するのが羽佐利谷で、この谷は上流で谷が二つに分かれているが、どちらの谷にもイワナが良く釣れた。特に左の谷には大きなイワナが釣れたが、聞くところによると羽佐谷はダムの工事では入れなくなったと聞いた。本当であれば非常に残念である。羽佐利谷を後に下流に行くと、左から入る谷が中江谷で此の谷もイワナが良く釣れた。さらに下ると、左から流入しているのが吉川谷、此の谷も同様好きな谷であった。此の谷々が、流入しているのが八東川。本流でアマゴとイワナが釣れ水質は最高に良く自然が残っておりお勧めしたいが、数十年前のことである。その他に兵庫県では揖保川・千種川・円山川。岡山県吉井川上流の西栗倉谷や徳島県吉野川支流白川谷。京都府清滝川と梨木谷、由良川上流の美山川支流林田川、上桂川上流の支流細野川芦見谷等を釣行しました。

## 夏の釣り

夏は鮎釣りの季節だ。

私の鮎釣りは初めて滋賀県の石田川へ三人で釣行した。日券と四三匹買って、私の竿に仕掛けを取付けて私の目の前で鮎を左手で握って川に入れ、鼻環を鼻の穴に通して、狐三本錨の七・五号を取り付け逆針を打ってくれた。これで終わり。言われた通りに両手で竿を支え浅瀬で鮎を入れて釣り始めた。なにせよ初めてであるので何も分からない。ゆっくり少し

ずつ上流に泳がせた。少し時間が過ぎた頃に、いきなり手に物凄い衝撃が走ったので吃驚した。教えて貰った通りに竿を少しずつ立て寄せて、手網に抄い入れたが、掛った鮎は掛かり処が悪く即死であったが、四は元気で居てくれて良かった。一応四匹に二匹を入れて沈め一休みする。此の衝撃が忘れられず、遂に鮎釣りの深みに入ってしまった。

初めは近郊の滋賀県大戸川や安曇川・野洲川・愛知川等に釣行したが、和歌山県にも足を延ばし、紀ノ川・有田川・日高川・日置川・古座川。

奈良県は、吉野川や天川・黒滝川で京都府は木津川から始まって、宇治川・保津川・上桂川・美山川。大阪府では、芥川・久安寺川・余野川・大路次川。その他、兵庫県や鳥取県、岡山県、四国の徳島県、高知県、北陸地方では福井県九頭竜川等の各河川を釣行して楽しんだ。

## 秋の釣り

十月秋は海釣りだが、船釣りは一切やらない。専ら波止釣り一途の釣りで、殆んど兵庫県明石方面か淡路方面で有る。

明石大橋下舞子公園周辺の場所は、足場も良く釣果も良かった。食べ物他便所も近くに有るし交通の便も良く、ゆっくり出来るし安全な釣り場で明石港周辺も好釣り場があるが、移動が大変でした。

明石港から船で岩屋港に渡って此の周辺も良い釣り場はあるが、淡路島での一番の釣り場は志筑港である。西宮から甲子園フェリーが運航していたので、是を利用して志筑港へ渡ったが、今は明石大橋が出来て航路も無くなった。便利にはなったが、反面不便になった思いでもある。志筑港には、上組と言う会社が有り、此の北側の波止が私達グループの釣り場所、東側はテトラで西側は手摺も無い危険な波止である。常時三名の釣行で、お互いに注意をして最初の頃は浮釣りで、夜は電気浮きを使用した。どうしても数が釣れないので、色々と考え私なりの仕掛けを考案し釣行した。此の釣り方で三人共面白いほど良く釣れた。釣り方は、探り釣りだと思う。竿はチヌ竿六・三米又は七・二米。リールは韓国製太鼓型で、道糸二号。錘はローリング二号、釣針は裾十号鈎素一・五号長さは七センチ位、餌はシラサ海老で是を付けた。此の釣りの方法で良い釣果が出る様になった、今でも時々この話で盛り上がる。好い釣友で有る。

## 【後書き】

今年で九十八歳になり、今までの楽しかった釣行を振り返って文書にしてみました。色々技術的な事は皆さんの考えで、釣行して頂きたい。好きな釣りをいつまでも楽しんで、健康な日々をお過ごし下さい。

そうして、釣りの文化を後世の方々に承継ください。

紙面の都合上、各活動報告には報告者からの元原稿に広報部で編集を加えています(短縮化)。より詳しい内容につきましてはJOFI大阪ホームページで公開しておりますのでぜひ、ご覧ください。

